

平成 15 年度兵庫県立健康環境科学研究所セミナープログラム

平成 15 年 12 月 16 日 (火) 午後 1 時 ~ 4 時 10 分

兵庫県民会館 9 階 けんみんホール

開会挨拶

13 : 00 ~ 13 : 05

兵庫県立健康環境科学研究所 所長 川村 隆

特別講演

13 : 05 ~ 14 : 15

健康危機管理における情報ネットワークの取り組み

国立保健医療科学院研究情報センター長 土井 徹

(座長 : 所長 川村 隆)

厚生労働省健康危機管理情報システム検討会 (座長 : 近藤健文慶應義塾大学医学部教授) の提言 (平成 14 年 3 月) では、必要な情報を地方自治体等に提供し、意思決定、対応等のサポートをするために、機関横断的な情報システム (24 時間 365 日対応可能、SE が常駐、シミュレーション (研修) 機能を含む) を設置すべき、とされている。それを受けて、平成 15 年 3 月国立保健医療科学院に健康危機管理支援情報システムが設置された。その概要を中心に述べる。

一般講演

14 : 15 ~ 14 : 35

化学物質に関する環境調査 兵庫県の現状と国の動向

安全科学部 藤森一男

(座長 : 安全科学部長 吉岡昌徳)

化学物質に関する環境調査が全国的に行われており、これら国における環境調査の経緯と最近の動向、兵庫県のかかわりについて紹介する。また、国立環境研究所と共同で行っている化学物質に関する地球規模海洋汚染観測の概要とその結果及び最近の動向、兵庫県内河川における同様の化学物質調査結果の概要等について報告する。

14 : 35 ~ 14 : 55

兵庫県における花粉飛散観測システムについて

健康科学部 後藤 操

(座長 : 健康科学部長 寺西 清)

花粉飛散は地域性が認められることから、全国各地で実情に合わせた花粉飛散観測システムが構築されている。兵庫県では、春季にスギ・ヒノキ・カバノキ科花粉の飛散情報を根幹に様々な花粉情報を提供し、また飛散予測のための基礎的検討を行っている。その現状と次シーズンに関西に導入される花粉観測システムの概略について報告する。

14 : 55 ~ 15 : 05

(休憩)

15 : 05 ~ 15 : 25

パルスフィールド電気泳動による細菌感染症事例の解析

感染症部 辻 英高

(座長：感染症部長 山岡政興)

腸管出血性大腸菌O157による全国的な食中毒事件以来、分離菌株の分子疫学的解析が重要視されるようになった。感染症部では兵庫県管内で発生した腸管出血性大腸菌感染症や細菌性食中毒などの分離株について、パルスフィールドゲル電気泳動を中心とした遺伝子解析によって菌株の異同を調べ、汚染源の特定などを行っている。それらの事例について報告する。

15：25～15：45 大気からの栄養塩類の降下量

水質環境部 梅本 諭

(座長：水質環境部長 谷本高敏)

ノンポイント汚染源からの栄養塩類の流出負荷量を求める上で、大気からの降下量を求めるのは重要なことである。都市域(神戸市)および山林域(生野町)で、湿性降下物および全大気降下物を採取し、窒素およびリンの降下物量を求めた。また、これらの値を用いて、大阪湾および播磨灘への大気による直接負荷量を算出したところ、大気降下物による窒素負荷量がかなり大きいことが分かった。その結果について報告する。

15：45～16：05 亜酸化窒素やメタンなど温室効果ガスの発生源および環境濃度監視

大気環境部 平木隆年

(座長：大気環境部長 玉置元則)

温室効果ガスのなかで大気中濃度が着実に増加しているものの発生量の推計が困難である亜酸化窒素とメタンについて、兵庫県において環境大気濃度の増加を監視するとともに県内事業所の協力を得て排出濃度の測定を実施した。発生源調査に基づいて排出係数を整理し、国内の発生量などを推計し、大気濃度の変化との対応などを調べた。ここで整理した排出係数は日本の排出係数として活用されている。

閉会挨拶

16：05～16：10

兵庫県立健康環境科学研究所次長 上杉輝之